

雄物川水系河川整備計画の基本的な考え方

河川整備計画とは、河川法の三つの目的である「治水」「利水」「環境」が総合的に達成できるよう、河川法第16条に基づき、平成20年1月に策定された「雄物川水系河川整備基本方針」に沿って、当面実施する河川工事の目的・種類・場所等の具体的事項を示す法定計画です。

雄物川水系では、河川整備基本方針に基づき、地域の個性と活力、歴史や文化が実感できる川づくりを目指すため、以下の3点を基本理念とし、関係機関や地域住民との情報の共有、連携の強化を図りつつ、治水、利水、環境の調和を図りながら河川整備に関わる施策を総合的に展開します。

●安全で安心が持続できる雄物川の実現

河川整備基本方針で定めた目標に向け、必要な各種治水対策を総合的に展開し、地域毎の治水安全度のバランスを考慮しつつ段階的な整備を進め、洪水、内水被害、高潮、地震等さまざまな災害から沿川地域住民の生命と財産を守るとともに、渇水に対する備えを充実させ、水利用の合理化、適正化に努め、良好な自然環境や生活環境の維持・向上等、地域の社会、経済、歴史、文化の基軸となっている雄物川にふさわしい安全と安心の実現を目指します。

また、地域の安全と安心が持続できるよう、流域の自然、歴史、社会特性を踏まえた効率的・効果的な河川の維持管理に努めます。

●雄物川の豊かで多様な自然環境の保全と次世代への継承

雄物川の豊かで多様な自然環境と河川景観を守り、次の世代へと引き継ぐため、行政と地域の連携と協働のもと、地域と関わりが深い農業や漁業等に配慮しつつ、流域一体となった河川環境の創出・復元・保全を目指します。

●雄物川を軸とした人・歴史・自然が調和した活力ある地域の創造

雄物川流域の河川空間は、大仙市の全国花火競技大会(大曲の花火)をはじめ、様々な祭事、公園や運動広場等多くの住民に活用されています。

雄物川が基軸となって形成された歴史・文化や自然環境が調和した人と川とがふれあえる場の整備・保全に努め、そこを拠点として地域の人々の交流や参加・連携を促すことにより、地域の活性化を目指します。

雄物川水系河川整備計画の変更方針

●整備計画変更の背景

「雄物川水系河川整備計画」は、河川法第16条に基づき、平成20年1月に策定された「雄物川水系河川整備基本方針」に沿って、当面実施する河川工事の目的・種類・場所等の具体的事項を示す法定計画として平成26年11月に策定され、これまで、治水・利水・環境における目的が総合的に達成できるよう河川整備を実施してきました。

今回、平成27年9月に発生した関東・東北豪雨により水防災意識社会を再構築する取り組みを行うこと、並びに、成瀬ダムの型式等諸元に変更が生じたことから、本計画の変更を行うものです。

●整備計画変更のポイント

①ダム事業のダム諸元変更による見直し

「5.河川整備の実施に関する事項」の実施内容見直し

●成瀬ダムの型式を台形CSGダムに変更

②関東・東北豪雨、水防法改正及び答申等を受けた見直し

超過洪水への対応・対策を追加・修正

●「施設の能力を上回る洪水を想定した対策」を追加

●「危機管理体制の整備・強化」を見直し

③その他の事項の見直し

統計データ等の時点更新

雄物川水系河川整備計画(変更)の経緯

雄物川水系河川整備基本方針の決定(平成20年1月)

成瀬ダム建設事業の検証に係る検討(平成21年11月～平成25年1月)

雄物川水系河川整備計画の策定(平成26年11月) **整備計画策定**

関東・東北豪雨(平成27年9月洪水)の発生

成瀬ダム型式変更(ロックフィル→CSG)

雄物川水系河川整備計画の変更 **整備計画変更**



成瀬ダム完成予想図(事業中)

ダム事業のダム諸元変更による見直し

●ダム諸元の変更内容

新たな技術である台形CSGダムを採用することにより、合理化施工が図られると共に、自然環境への影響低減が可能となることから、ダム諸元を変更します。

成瀬ダム諸元の変更による環境に与える影響の軽減

ロックフィルダムのイメージ



岩石採取後の原石山のイメージ



ロックフィルダムでは、大量の固い岩石を必要とするため2箇所からの採取を計画。

台形CSGダムのイメージ



台形CSGダムは、周辺から採取できる砂礫を活用でき、ダム堤体の体積も少なくなるため必要な岩石は1箇所からの採取を計画。

	ロックフィルダム(現計画)	台形CSGダム(計画変更)
標準断面図		
諸元	ダム高 113.5m 堤頂長 690m 堤体積 11,958千m ² 総貯水容量 78,500千m ²	ダム高 114.5m(1.01) 堤頂長 778.5m(1.13) 堤体積 4,760千m ² (0.40) 総貯水容量 78,500千m ² (1.00)
特徴	◇堤体積を最小にする設計 ①堤体の設計 ②設計に適合した良好な材料の確保	◇材料強度に応じた堤体の設計 ①手近にある材料の工学的特性の調査 ②材料に応じた堤体の設計 ③コストの縮減、環境への影響低減

関東・東北豪雨、水防法改正及び答申等を受けた見直し

●平成27年7月 改正水防法施行

・浸水想定区域について、想定し得る最大規模の洪水に係る区域に拡充して公表(雄物川水系(大臣管理区間)では、平成28年6月10日に新たな浸水想定区域を公表しました。)

●平成27年8月 社会資本整備審議会 気候変動に適應した治水対策検討小委員会「水災害分野における気候変動適応策のあり方について」

・比較的発生頻度の高い外力に対し、施設により災害の発生を防止
・施設の能力を上回る外力に対し、ソフト対策を重点的に「命を守り」「壊滅的被害を回避」

●平成27年12月 社会資本整備審議会 大規模氾濫に対する減災のための治水対策検討小委員会「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について」

・洪水が発生することを前提として、社会全体でこれに備える「水防災意識社会」を再構築
・流域自治体・県・気象台及び国土交通省で「雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会」を設立

その他の事項の見直し

●統計データ等の時点更新

現在の河川整備計画(平成26年11月策定)に記載している統計データ等について、最新データへの時点更新を行っております。



〒012-8790

秋田県湯沢市関口
字上寺沢64-2

国土交通省 東北地方整備局
湯沢河川国道事務所
調査第一課 行

ご氏名 (フリガナ)	
ご住所 (都道府県名と市町村名までは、必ずご記入ください。)	
電話番号又は電子メールアドレス	
年齢	代

※ご記入いただきました個人情報については「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。ただし、いただいたご意見とともに、年齢、ご住所(都道府県名と市町村名のみ)を公表する場合があります。